

場所 北海道中川郡豊頃町

面積 59.6ha

活動目的 水源涵養機能の発揮と動植物や鳥類の貴重な棲み家として維持管理することにより地域環境へ貢献することを管理目的とする。

サイト概要 本サイトは、北海道中川郡豊頃町十弗地区に所在する天然2次林で、主にミズナラ、サワシバ、アサダ、イヌエンジュ、カツラなどの在来樹種で構成され、一部の尾根筋には過去の伐採時に保残された原生木と思われる直径1mを超えるミズナラ大径木がこれらの在来種に混ざり点在するなどの特徴を有しているほか、環境省レッドリストもしくは北海道レッドデータブックにて希少種に分類されるものを含む多くの草木、哺乳類、鳥類が確認されている。



土地利用の 変遷

当社取得後は継続して山林として維持管理されており、北海道の発行する森林調査簿上の樹齢や林況からの推定で1930～1940年代頃に薪炭採取などを目的とした主伐が行われたと推定されるが、詳細は資料がなく不明である。現況は自然発生やぼう芽による自律的な更新が図られている。

サイト周辺の 環境

豊頃町は北海道十勝地方の中東部に位置し、ミズナラを主体とした多様な天然2次林とカラマツを主体とした人工林が広がる。また、周辺の山間の平地では主に畑作農家による耕作が盛んに行われている。

アピール ポイント

当該森林では2021年に植物、2022年に鳥類・哺乳類の確認調査をそれぞれ実施しており、多くの種が確認されていることに加え、林内に存在するミズナラの巨木は当社が保有する社有林内でも有数の大きさであり、かつそれらが複数点在していることは非常に貴重な環境である。

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

当森林は複数の急峻な沢と比較的緩やかな地形で構成される天然2次林で、山すそに流れる十勝川水系上流の礼文内川の流量調整に貢献している。2021年から2022年にかけて実施した生物多様性調査において、植物266種、哺乳類8種の生息のほか、鳥類35種の飛来が確認されている。

【主な植生】

主な植生はミズナラ、サワシバ、アサダ、イヌエンジュなどの樹木ほか、下層植生はミヤコザサを中心にカヤツリグサ科やイネ科、マメ科、ラン科などに属する多くの植物が存在している。

【確認された主な動植物など】

申請区域全体では植物266種、哺乳類8種、鳥類35種が確認されており、その主な種は以下の通りである。

植物：ミズナラ（学名：*Quercus crispula* var. *crispula*、成体）、カシワ（学名：*Quercus dentata*、成体）、サワシバ（学名：*Carpinus cordata*、成体）、アサダ（学名：*Ostrya japonica*、成体）、イヌエンジュ（学名：*Maackia amurensis*、成体）、カツラ（学名：*Cercidiphyllum japonicum*、成体）、ハルニレ（学名：*Ulmus davidiana* var. *japonica*、成体）、シラカンバ（学名：*Betula platyphylla*、成体）、等

哺乳類：コウモリ（学名：*Chiroptera*、成体）、エゾリス（学名：*Lepus timidus ainu*、成体）、エゾヒグマ（学名：*Ursus arctos yesoensis*、成体）、エゾタヌキ（学名：*Nyctereutes procyonoides albus*、成体）、エゾクロテン（学名：*Martes zibellina brachyura*、成体）、等



写真の説明：サイト内の様子



写真の説明：サイト内の様子

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

当森林は複数の急峻な沢と比較的緩やかな地形で構成される天然2次林で、2021年から2022年にかけて実施した社有林調査において、文化財保護法、環境省レッドリスト、北海道レッドデータブックに該当する希少種を、植物8種、鳥類2種、哺乳類1種確認している。

【確認された希少種】

- (1) 2021年5月から9月にかけて実施した社有林調査（植物）において8種の希少種を確認
チドリケマン（学名：*Corydalis kushiroensis*、環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類VU）
ヤエガワカンバ（学名：*Betula davurica*、環境省レッドリスト準絶滅危惧NT）
エゾキヌタソウ（学名：*Galium boreale* var. *kamtschaticum*、環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類VU） など
- (2) 2022年5月から9月にかけて実施した社有林調査（鳥類・哺乳類）において以下の希少種を確認
- 鳥類（飛来）
オオジシギ（学名：*Gallinago hardwickii*、環境省レッドリスト準絶滅危惧NT）
クマゲラ（学名：*Dryocopus martius*、天然記念物、環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類VU）
- 哺乳類
エゾクロテン（学名：*Martes zibellina brachyura*、成体、環境省レッドリスト準絶滅危惧NT）



写真の説明：サイト内で確認されたチドリケマン
（環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類VU）



写真の説明：写真の説明：サイト内で確認されたエゾキヌタソウ
（環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類VU） 4

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
<p><活動目的> 水源涵養機能の発揮による近隣河川の流量調整などへの貢献、及び多様な動植物や鳥類の貴重な棲み家を守るため本サイトを適切に保全するとともに、地域住民やグループ社員などを対象とした森林学習や研修などに本サイトを積極的に活用し、森林や生物多様性の重要性に関して出来る限り広く普及することを目的とする。</p> <p><サイトの管理方針> 地表の無用な攪乱により下層植生が受ける損失を避け、水源涵養機能の増進を図るため、安全上の懸念や森林保護の観点から必要と考えられる場合を除き、原則として伐採や土地の改変（散策路の維持管理に係る軽微なものは除く）は行わないことに加え、特定種に限定した保全は選択せず自然の推移に委ねた管理に努める。</p> <p><活動内容（維持管理作業）> ・年2回程度の定期的な監視の実施（公道からの目視、踏査、ドローン等）。 ・年1回下刈りなどの管理作業を行い、散策路や樹木板を維持する。 また、「散策路内に落下が懸念される枯れ枝などは維持管理作業の中で可能な範囲で除去する」「強風などの悪天候時は森林学習等の実施を見合わせる」など、安全対策を併せて講じる。 ・鹿を中心とした森林病虫獣害については、顕著な被害（被害兆候を含む）を確認した段階で速やかに専門家や関係行政と対応を検討し、実行する。</p>	<p>【モニタリング対象】 ①植物、②哺乳類、③鳥類、④昆虫を対象とする。</p> <p>【モニタリング場所】 ①植物：サイト内に設置したルート沿い、②哺乳類：5箇所以上、③鳥類：定点観測4地点以上（+哺乳類調査でのセンサーカメラ）、④昆虫：踏査はサイト内に設置したルート沿い、ベイトトラップは4地点以上</p> <p>【モニタリング手法】 ①植物：植物相調査、②哺乳類：センサーカメラ、③鳥類：定点観測及びセンサーカメラ、④昆虫：現地踏査及びベイトトラップ</p> <p>【モニタリングの実施時期及び頻度】 ①～④共通：実施間隔は5年に1度 実施年における頻度はモニタリング計画書の通り</p> <p>【モニタリング実施体制】 原則として利害関係の無い外部の調査会社もしくは専門家に依頼のうえ実施。</p>